

三郎日記

私は大阪生まれで、日本人の父とエルサルバドル人の母から生まれ日本で育ちました。初めてエルサルバドルに来たのは1987年の内戦真っ最中、14歳だった私は母の里帰りのボディガードとして初めてエルサルバドルを訪れました。大阪ーサンフランシスコーロサンゼルスーメキシコーサンサルバドルと今では考えられないくらいの長旅の末、着いたエルサルバドルは、熱帯雨林のジャングルに囲まれたまるでランポーの世界のように思えました。

8月と9月の滝のような大雨の中の2か月間滞在しましたが、上空20~30mくらいのところにはベトナム戦争で使われていたヘリコプターがぐるぐると飛び回り、陸では戦車とその前後300人ずつくらい軍隊が連なって歩いていました。あの時の恐怖と経験は忘れられないものです。それでも、リベルタ県にあるSunzalのSol y marビーチにある大きなプールで見た、そこに打ち付けられる20~30mくらいの高さの波が雄大で感動しました。



日本に帰ってからも海の魅力が忘れられず、サーフィンをはじめました。週末には友人と集まって車で三重県の国府の浜、和歌山県の磯ノ浦、京都の八丁浜、竜宮浜等に行きました。特に真冬の日本海、皆はスキーやスノーボードをしている時期に、私達は修行僧よりも過酷な海の中でサーフィンをやっていました。

大阪で働いていた時、先輩がサーフィンのセミプロで、メキシコとコスタリカにサーフィンの大会でいくというのを聞き、私はエルサルバドルは両国の間にある国なので絶対に良い波があると思いました。それで、自分の勘を信じて思い切って新品のボードを30%引きで買って、1995年にエルサルバドルに再び来ました。一応、第1の目的はスペイン語の勉強で、サーフィンは2番目という名目でした。

それから 26 年、私の目に狂いはなかったと思っています。なぜなら、エルサルバドルは何といっても気候が良く、マンゴが食べ放題、コーヒー飲み放題、波乗りし放題です。また、エルサルバドル人は人見知りをしなくて、親切で、外国人が大好きな国民です。生きていくために必要なものは、1に健康、2に笑顔、3に感謝で、「シンプル・イズ・ベスト」を基本に生きています。その日暮らしの僕たちにとっては最高の国なのです。



現在、Playa El Zonte という静かなプライベート別荘地があるビーチで、世界中から集まってくるサーファーに気持ちよく波乗りしてもらえるように色々な試みをしています。勿論、4 歳になる息子と一緒に毎日波には乗っています。

Horizonte Surf Camp:

HP: <https://horizontesurf.com/>

Facebook: <https://www.facebook.com/horizontesurf/>



ところで、どこの国にも素晴らしいビーチと波があるのに、何故エルサルバドルのビーチがサーファーにとって魅力的か分かりますか？ 理由は色々ありますが、1つ目は、空港や首都からビーチまでが非常に近くタクシーで簡単に移動ができる（30分以内）こと、2つ目は、年中温かい水温で、常に良い波があること、3つ目は、火山や遺跡等の色々な観光地にも1時間以内で行けること、というのが大きな理由です。



今年（2021年）は、待ちに待ったサーフィンショートボード世界大会が5月29日～6月6日まで開催され、現在準備で大忙しです。しっかりとコロナ対策をして皆が安心して参加できるような大会が行われるのを願っています。



奥沢三郎（おくざわ さぶろう）氏

日本人の父とエルサルバドル人の母を持ち、大阪で生まれ育つ。1995年よりエルサルバドルに移住、自然の恩恵とエルサルバドル人の温かさに感謝するとともに、当国の魅力を伝えつつサーフィン三昧の生活を送っている。